株式会社 グループセブ ジャパン
本社：〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル東館 4F

お客様相談センター
0570-077772
ナビダイヤル
受付時間：9:00～18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

部品注文センター
修理センター
0570-086072
ナビダイヤル
受付時間：9:00～18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

※ 商品により部品としての取り扱いのないものがございます。

キリトリ線

Ref: 3206003887-02

取扱説明書

T-fal

ティファール 電気ケトル

Justine Control

ジャスティン コントロール 1.2L

KO5T*
Type KO5T



はじめに
安全上のご注意 …… 2
使用上のご注意 …… 4
各部の名称と機能 …… 5

使い方
使い方 …… 7
使い終わったら …… 10

その他
お手入れの方法 …… 11
故障かなと思ったら …… 12
製品仕様 …… 13

- お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- 正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
- 読み終わったあとは、いつでも見られる場所に保管してください。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。

● 本製品は家庭用です。業務用または一般家庭以外での使用や取扱説明書の指示に反する使用について、弊社は一切の製造責任と保証の責任を負いかねます。

絵表示の例



⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が表記されています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が表記されています。

⚠ 警告 誤った取り扱いをしたときに、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

電源・電源コード

定格15A・交流100Vのコンセントを単独で使用する（指示）



他の機器と併用すると、発熱による火災や故障の原因になります。

海外など、異なる電源電圧の地域で使用しない（禁止）

当製品は日本国内専用です。

ゆるんだコンセント、延長コード、テーブルタップなどは使用しない。電源コードを束ねたまま使用しない

発火、故障の原因になります。

電源プラグや電源コードに損傷があるとき、または使用中に異常に熱くなるときは、ただちに使用を中止する（指示）

そのまま使うと、ショートや発火するおそれがあります。弊社修理センターまでご相談ください。

異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電源プラグを抜く

そのまま使うと、ショートや発火するおそれがあります。弊社修理センターまでご相談ください。

電源コードが傷んだり、コンセントの差し込みが緩いときは使用しない（禁止）

そのまま使うと、感電、ショートや発火するおそれがあります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む（指示）



差し込みが不完全な場合、感電・発熱による火災の原因になります。

● 傷んだ電源プラグ・ゆるんだコンセントは使わないでください。

電源プラグのほこりなどは、定期的に取り除く

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

● 電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない（禁止）



感電の原因になります。

電源プラグや電源コードを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、重い物を載せたり、束ねたりしないでください。傷んだまま使うと、感電・ショート・火災の原因になります。

お取り扱い

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造しない（分解禁止）

発火したり、異常作動をしてけがをするおそれがあります。

ふたを開けたまま湯を沸かさない（禁止）

湯沸かし中は、確実にふたを閉めてください。湯が流れ出てやけどをするおそれがあります。

ふたを持ってケトル本体を移動させない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

注ぎ口をふきんなどでふさがない

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。

本体を抱きかかえたり、傾けたり、ゆすったりしない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

水につけない

感電・ショート・火災、故障の原因になります。

直火（ガス台や電気ヒーター）、電磁調理器（IH）、電子レンジなどに使わない

火災・熱変色・変形・故障の原因になります。

ケトル本体の底部や電源プレートを水につけたり、水に濡らしたりしない

ショートしたり、感電するおそれがあります。

標高2000m以上の場所で使用しない

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。

加熱中に給水しない（禁止）

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。

ふたを勢いよく閉めない

湯がふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。

ケトルを転倒させない

湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。

子供だけで使わせたり、乳幼児の手の届く所で使わない

やけど・感電・けがをするおそれがあります。

MAX(満水)目盛り以上の水を入れない

水を入れすぎた場合、熱湯が飛び出すことがあり、やけど・感電・けがをするおそれがあります。

電源プレート中央の接続部（金属部）やケトル本体接続部や電源プラグをなめさせない

感電やけがのおそれがあります。特に乳幼児には触らせないでください。

氷を入れるなどして保冷用に使わない

内蔵の電気部品に水や露がつき、感電・故障の原因になるおそれがあります。

安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人（子供を含む）には、単独で使用させない。また、製品で子供が遊ばないように注意する

やけど・感電・けがをするおそれがあります。

⚠ 注意 誤った取り扱いをしたときに、人が損害を負う可能性および物的損害が想定される内容です。

電源・電源コード

使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く（コンセントからはずす）

絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く（指示）

感電したりショートしたりして、発火するおそれがあります。

安全上のご注意（続き）

お取り扱い

指示　コンセントに電源プラグを差し込んでいるときは、電源コードをひっかけないよう気をつける
本体が落下し、やけどやけがをするおそれがあります。

禁止　専用の電源プレート以外は使わない。また、付属の電源プレートを他の機器に転用しない
発火、故障の原因になります。

湯沸かし中または湯沸かし直後は、ふたを開けたり、注ぎ口に触れたり、蒸気に手を近づけたりしない
注ぎ口などから熱い蒸気が出て、やけどをするおそれがあります。

湯沸かし中は、移動させない
湯が流れ出たり、蒸気でやけどをするおそれがあります。

牛乳を沸かす、紅茶を煮出す、スープを作るなど、湯沸かし以外の目的で使用しない
ふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。さらに、故障や汚れの原因にもなります。

使用中および使用直後に取っ手以外の本体および注ぎ口には触れない
使用中や使用直後は本体が非常に熱くなり、やけどをするおそれがあります。

禁止　壁や家具の近くで使わない
蒸気または熱で壁や家具を傷め、変色、変形の原因になります。

ストーブやガスコンロなど熱源のそばや直射日光が当たる場所では使わない
本体のプラスチック部分が熱で損傷し、けがややけどをするおそれがあります。

ガラス窓の近くで使用しない
ヒビが入ったり割れることがあります。

不安定な場所や、熱に弱い敷物の上、可燃物の近く（カーテンの近くなど）では使わない
火災の原因になったり、けがややけどをするおそれがあります。

瓶やカップなど、水以外のものをケトルの中に入れない
ふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。さらに、故障や汚れの原因にもなります。

電源プレート中央の接続部（金属部）にピンを差し込んだり、ゴミを付着させない
感電、ショート、発火の原因になります。

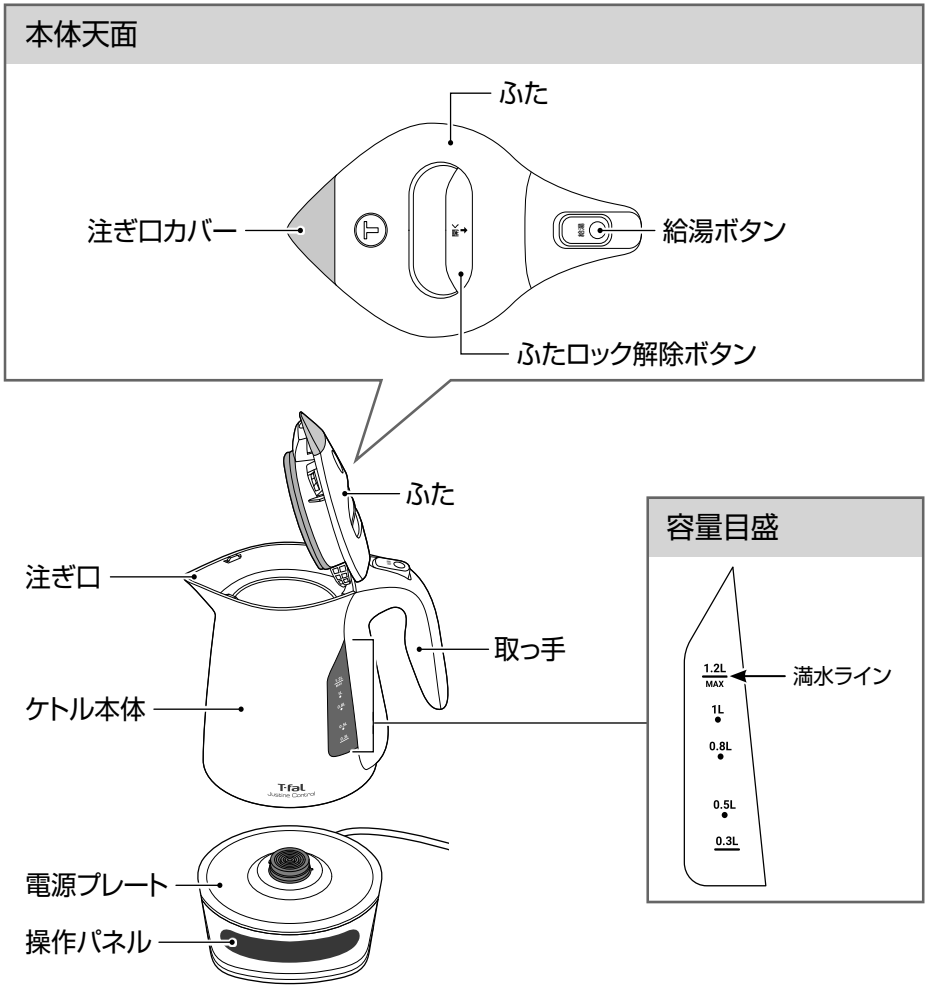
使用上のご注意

注意　ジャーポットと違い、湯沸かし中や沸とう後は本体が熱くなっていますので、ご注意ください。

お知らせ　ケトルは、工場出荷前に水を入れて検品をしております。まれに、本体内に白い跡が残っていることがございますが、検品時の水の跡ですので、2～3回すすいだ後、安心してお使いいただけます。

- **ケトルに水が入っていないときは、スイッチをオンにしない**
  故障の原因になります。
- **ふたを開けた状態のまま、湯を沸かさない**
  本製品は、ふたをした状態で湯を沸かす仕様になっています。
- **水質改善材・浄化材（備長炭）など、水以外のものをケトルの中に入れないでください**
  故障の原因になります。
- **本製品は湯沸かし専用にお使いください**
- **本製品は一般家庭用です ● 本製品は必ず屋内で使用してください**
- **直射日光が当たる場所への本製品の設置、ご使用はお控えください**
  故障の原因になります。
- **長期間使用しないときは、十分に乾燥させたあと、においがつかないようにポリ袋などに入れて保管してください。**

各部の名称と機能



電源コードのセット方法



<裏面>

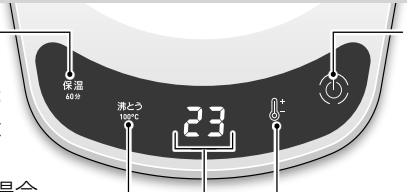
電源プレート裏の切り込みに電源コードを確実にセットしてください。

- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。発火、故障の原因になります。

- 本製品は、ケトル本体と電源プレートのセパレート式になっています。
- 注ぎ口カバーは、注ぎ口からほこりなどが入るのを防ぎます。
- 本製品は、本取扱説明書の記載の通りのご使用において、転倒してもお湯がこぼれ出にくい構造となっておりますが、万一転倒した場合は、お湯がこぼれ出る場合がありますので、お気をつけください。

各部の名称と機能（続き）

操作パネル



保温ボタン
設定した温度に加熱し、その後保温します。(100℃に温度設定した場合は95℃で保温されます)
温度を設定していない場合は、60℃に加熱･保温します。

沸とうボタン
水を沸とうさせます。

現在の水温

電源ボタン
電源をオン/オフします。
電源オン・オフ時は以下の音が鳴ります。
オン時：ピッ
オフ時：ピーピー

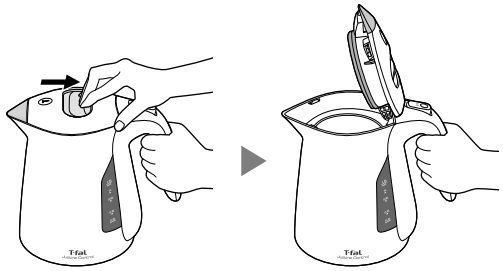
温度設定ボタン
設定した温度に加熱します。温度は、40～100℃の範囲で9段階に設定可能です。

※ 操作パネルは何も押さない状態で約30分経つと、スタンバイモードになり、電源ボタン以外の表示がオフになります。スタンバイモード中に再度電源ボタンを押すと、すべてのボタンの表示がオンになります。

ふたの開け方、閉め方

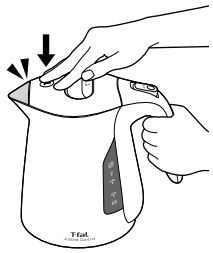
開け方

ケトル本体の取っ手を持って、ふたの手がかり部分にあるふたロック解除ボタンを押しながら、注ぎ口側から取っ手側の方へ引き上げます。



閉め方

ふたをケトル本体に押し込み、カチッというまでしっかりとふたを閉めてください。



注意

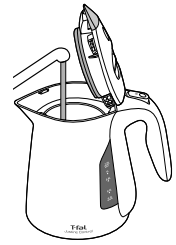
ふたがしっかり閉まっていないと湯沸かし中ふたが開いたり、湯を注いでいるときにふたが開き、やけどのおそれがあり危険です。

使い方

注意

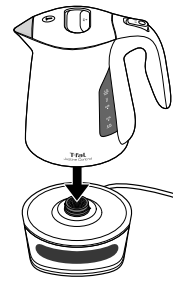
- 初めてケトルを使用する際は、念のため最初の2～3回はすすいでからご使用ください。
- 電源プレートの上に本体を載せた状態のまま水を注ぐことはおやめください。
- ミネラルウォーターやアルカリイオン水を沸かしたときは、水に含まれるミネラル成分がケトル内部に付着しやすくなります。
- 水を入れすぎた場合、熱湯が飛び出すことがありますので、MAX（満水）ライン以上は水を入れないでください。また、水を入れないまま、空だきをしないでください。故障の原因になります。
- 水以外のものは沸かさないでください。ふきこぼれ、故障の原因になります。
- ふたがきちんと閉まっているのを確認してください。
  ふたがきちんと閉まっていないとお湯が沸いてもスイッチが切れない場合があります。

1 ケトル本体に必要な量の水を入れ、ふたを閉める。



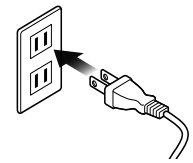
お知らせ
水300ml以上でのご使用をお勧めしています。

2 ケトル本体を電源プレートに正しくセットする。



- 電源プレートは清潔で平らなところに置いてください。
- 電源プレートにセットする際は、ケトル本体が安定していることを確認してから手を離してください。

3 電源プレートのプラグをコンセントに差し込む。

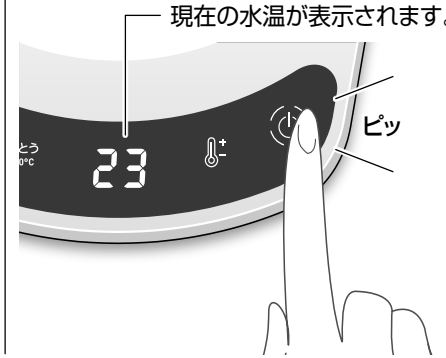


電源プレートからピーと音がします。

注意

定格15A･交流100Vのコンセントを単独で使用してください。他の機器と併用すると、発熱による火災、故障の原因になります。

4 電源ボタンを押して電源を入れる。



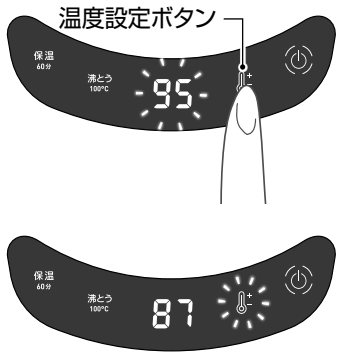
注意
加熱中は絶対にふたを開けたり、蒸気に手を近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。

5 操作ボタンを押して加熱を始める。

温度設定モード　—　お好みの温度に加熱する

① **温度設定ボタンを押して、温度を設定します。**
ボタンを押すごとに100℃・95℃・90℃・85℃・80℃・70℃・60℃・50℃・40℃の温度が選択できます。
※ 一度沸とうさせて温度が下がるのではなく、直接設定温度になります。

② **温度が確定するまで3秒間待ちます。**
3秒間たつと温度表示が点滅から点灯に変わり、加熱が開始されます。
現在の水温より低い温度に設定したときは、加熱はおこなわれません。
- 加熱中も温度設定ボタンを押して温度設定を変更することができます。



加熱中は、温度設定ボタンが点滅します。

加熱を中止するときは、
電源ボタンを押します。

お湯の温度が設定温度に到達する直前に、ピッ、ピッ、ピッと音が3回鳴り、温度到達を予告します。到達するとピーと音が1回鳴り、加熱を終了します。
- すべてのボタンが点灯します。
- 加熱時間は、水量・水温・室温などによって多少異なります。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。

沸とうモード　—　水を沸とうさせる

沸とうボタンを押すと、すぐに加熱が始まります。



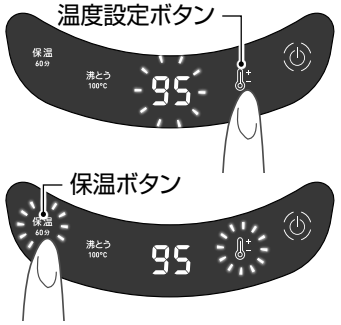
加熱中は、沸とうボタンが点滅します。

加熱を中止するときは、
電源ボタンを押すか、沸とうボタンを再度押します。

お湯の温度が設定温度に到達する直前に、ピッ、ピッ、ピッと音が3回鳴り、温度到達を予告します。到達するとピーと音が1回鳴り、加熱を終了します。
- すべてのボタンが点灯します。
- 加熱時間は、水量・水温・室温などによって多少異なります。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。

保温モード　—　設定温度に加熱した後、保温する

① **温度設定ボタンを押して、保温したい温度を選択します。**
- 保温の最高温度は95℃です。100℃に温度設定した場合は、95℃で保温されます。
- 現在の水温より低い温度に設定した場合は、加熱されません。
- あらかじめ温度を設定している場合は、再度設定する必要はありません。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。



加熱中は、温度設定ボタン・保温ボタンが点滅します。

② **保温ボタンを押します。**
設定した温度まで加熱した後、その温度で保温します。100℃に温度設定した場合は、95℃で保温されます。
お湯の温度が設定温度に到達する直前に、ピッ、ピッ、ピッと音が3回鳴り、温度到達を予告します。到達するとピーと音が1回鳴り、加熱を終了します。

- 保温モード中は保温ボタンが点滅します。
- 保温時間は60分間です。
- 温度を設定していない状態で保温ボタンを押すと、60℃に加熱・保温します。
- 温度は最大で±3℃の誤差が出る場合があります。
- 保温中にケトルを電源プレートから外しても、再度電源プレートにセットし、10秒以内に保温ボタンを押すと、保温が再開されます。
- 沸騰後に95℃以下で保温すると、赤ちゃんのミルク作りなどの際に便利です。

加熱、保温を中止するときは、
電源ボタンを押すか、保温ボタンを再度押します。

ヒント　保温は加熱中でも設定することができます。

温度設定モードで加熱中



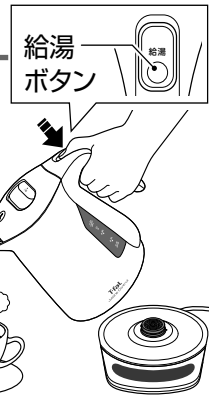
保温ボタンを押すと、温度設定ボタンが点滅したまま、保温ボタンが点滅します。
設定温度に加熱した後、その温度で保温します。

沸とうモードで加熱中



保温ボタンを押すと、沸とうボタンが点滅したまま、保温ボタンが点滅します。
沸とう後は、95℃で保温します。

使い方（続き）



6 お好みの温度になったら、給湯ボタンを押しながらお湯を注ぐ。

給湯ボタンを押している間は、注ぎ口カバーが開き、お湯が出ます。
給湯ボタンから指を離すと、注ぎ口カバーが閉じ、お湯が止まります。

- ケトル本体を電源プレートに戻す際は、ケトル本体が安定していることを確認してから手を離してください。
- 電源オンにしている間はケトルをセットしたり、はずしたりすると、ピッという音が鳴ります。

注意
- 取っ手以外のケトル本体および注ぎ口は非常に熱くなります。やけどをする恐れがありますので、触れないでください。
- 沸とう直後にふたを開けないでください。やけどをすることがあります。
- お湯を注ぐ際、急にケトル本体を傾けないでください。注ぎ口から湯が飛び出すおそれがあります。

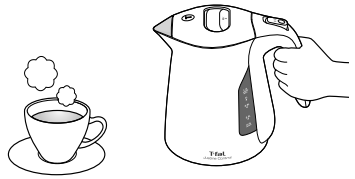
⚠注意

指示 **使用後、ふたを開けたときに、ふた内部から熱い湯滴が落ちることがあります。ふたをゆっくりと引き上げ、扱いには十分に注意する**
やけどをするおそれがあります。

禁止 **湯沸かし中や湯沸かし直後は、絶対にふたを開けたり、ふた周辺や注ぎ口から出る蒸気に手を近づけたりしない**
やけどをすることがあります。

7 注ぎ終わったら、給湯ボタンから指を離し、本体を電源プレートに戻す。

お知らせ　ケトル使用後しばらくすると、カチンッと音がすることがありますが、これは熱せられたプラスチックや金属部分が冷めるときに発生する音ですので、製品に問題はありません。安心してお使いください。

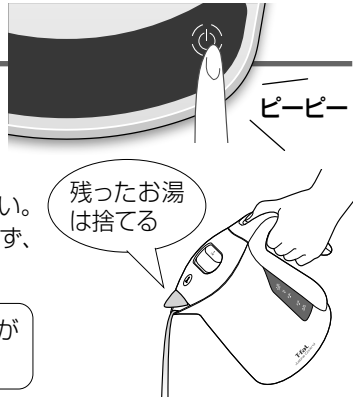


使い終わったら

電源をオフにして、残ったお湯を捨てます。

- お湯がふたの中に残っている場合があります。ふたを開ける際には、ゆっくりと引き上げてください。
- ご使用後は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ご使用後は、水あかの付着をおさえるため、お湯を残さず、ケトル内部を空にしてください。

お知らせ　ご使用後は、個人差により取っ手と本体が熱く感じられる場合があります。



お手入れの方法

長期間清潔にご使用いただくためには、定期的にお手入れをしてください。

本体外側のお手入れ

本体が冷めるのを待ち、やわらかい布で拭いてください。
がんこな汚れには、ぬらした布に中性洗剤を含ませてこすり、拭き取ってください。



注意
- 必ず電源プラグを抜いて、本体が冷めるのを待ってからお手入れをしてください。
- ケトル本体と電源プレートを水に浸けることは絶対におやめください。故障の原因になります。
- 磨き粉や金属タワシ、漂白剤などを使用しないでください。傷がついたり変色したりするおそれがあります。

本体内側のお手入れ

内側に汚れが目立ってきたら、定期的にお手入れをしてください。
なお、本体内側の汚れ（白い浮遊物、虹色などの変色、白いはん点、赤さび状のはん点など）は、水に本来含まれるミネラル成分の作用によるものです。
衛生上問題ありませんので、ご安心ください。

注意

熱や蒸気に触れる樹脂部品は、ご使用にともなって傷んでくる場合があります。食品衛生上安全な材料を使用していますが、変色したりザラザラしてきた場合は交換してください（有償となります）。

通常のお手入れ



水でよくすすいだ後、乾いたふきんなどでしっかりと拭いてください。

汚れが落ちにくい場合ークエン酸を使って

1 水をMAX（満水）ラインまで入れ、その中にクエン酸（15g程度）を入れて、かき混ぜます。
2 ふたを閉めて沸とうさせ、その後、約1時間放置します。
3 お湯を捨て、水で十分にすすぎます。
4 クエン酸のにおいが気になるようでしたら、水だけを入れて、再度通常どおり沸とうさせ、お湯を捨ててください。

注意

内側底部のステンレス部分をお手入れする際は、柔らかいスポンジをお使いください。また、ステンレス部分は強くこすらないでください。表面に傷がつくおそれがあります。

ふたのお手入れ

水ですすいだ後、乾いたふきんなどでしっかりと拭き、乾かしてください。

故障かなと思ったら

このようなとき	原因	対処方法
ケトルが作動しない、または沸とう前に止まってしまう	コンセントにプラグが入っていない。	電源プレートのプラグを確実にコンセントに差しこんでください。
	空だきしたため、安全装置が作動して、ヒーター部への通電が自動的に切れた。	ケトル本体を電源プレートからはずし、熱を冷ましてから水を入れてください。
加熱されない	設定温度が現在の水温より低い。	設定温度を水温より高くするか、沸とうボタン（100℃）を押してください。
	水温を検知できない。	修理センターへご連絡ください。
お湯を沸かすとプラスチックくさい	プラスチック製電気製品（本製品）は、一般的にプラスチック部分が熱で温められることにより、プラスチック特有のにおいが出ます。	においが気になる場合は、以下の手順でお手入れをしてください。 **[重曹によるにおいの軽減の方法]** 1. 水をMAX（満水）ラインまで入れ、その中に重曹（15g程度）を入れます。 2. よくかき混ぜて重曹を溶かします。 3. ふたを閉めて沸とうさせ、その後、半日（約12時間）放置します。 4. お湯を捨て、水で十分にすすぎます。
水が漏れる・ふき出す	MAX（満水）目盛より多く水が入っている。	水量をMAX（満水）目盛以下に減らしてください。
	水以外の飲料が入っている。	水以外は沸かさないでください。
	本体内の蒸気管に水・お湯が入った。	水やお湯が入った本体を取っ手側に傾けたり、激しく振ったりすると、お湯が本体内の蒸気管に入って底面からこぼれ出るおそれがあります。 水やお湯が入っている本体は丁寧に扱ってください。

■ 下記のような点滅表示になったときは修理センターへご連絡ください。

点滅表示	状態
E1	水温を検知できない。
E3	1分間、加熱しても温度が上がらない。

製品仕様

電気ケトル Justine Control 1.2L（ジャスティン コントロール 1.2L）		
定格電圧		100V
周波数		50/60Hz
定格消費電力		1250W
最大容量		1.2L
質量（全体）		約 1300g
サイズ（全体）	幅	約 25cm
	奥行き	約 21cm
	高さ	約 24cm
電源コードの長さ		約 1.1m
温度ヒューズ		192℃

※仕様・デザイン・価格等は変更になることがあります。ご了承ください。
※本製品は日本国内のみで使用できます。
※本製品は中国製です。
※標高の高い場所、厳寒地などでは所定の性能が発揮できない場合があります。

愛情点検

●長年ご使用の電気ケトルの点検を！

こんな症状はありませんか?

- ●コード、電源プラグ、電源プレートに損傷が見られる。
- ●ご使用中にコードや電源プラグが異常に熱くなる。
- ●コードを動かすと通電したり、しなかったりする。
- ●いつもより本体が異常に熱くなったり、こげくさいにおいがする。
- ●本体から水が漏れる。
- ●その他の異常・故障がある。

ご使用中止

このような症状が見られるときは、故障や事故防止のため、使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、必ずグループセブジャパン修理センターに点検・修理をご相談ください。

株式会社 グループセブ ジャパン
本社：〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル東館 4F

お客様相談センター
0570-077772
ナビダイヤル 受付時間：9:00～18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

部品注文センター
修理センター
0570-086072
ナビダイヤル 受付時間：9:00～18:00(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

※ 商品により部品としての取り扱いのないものがございます。